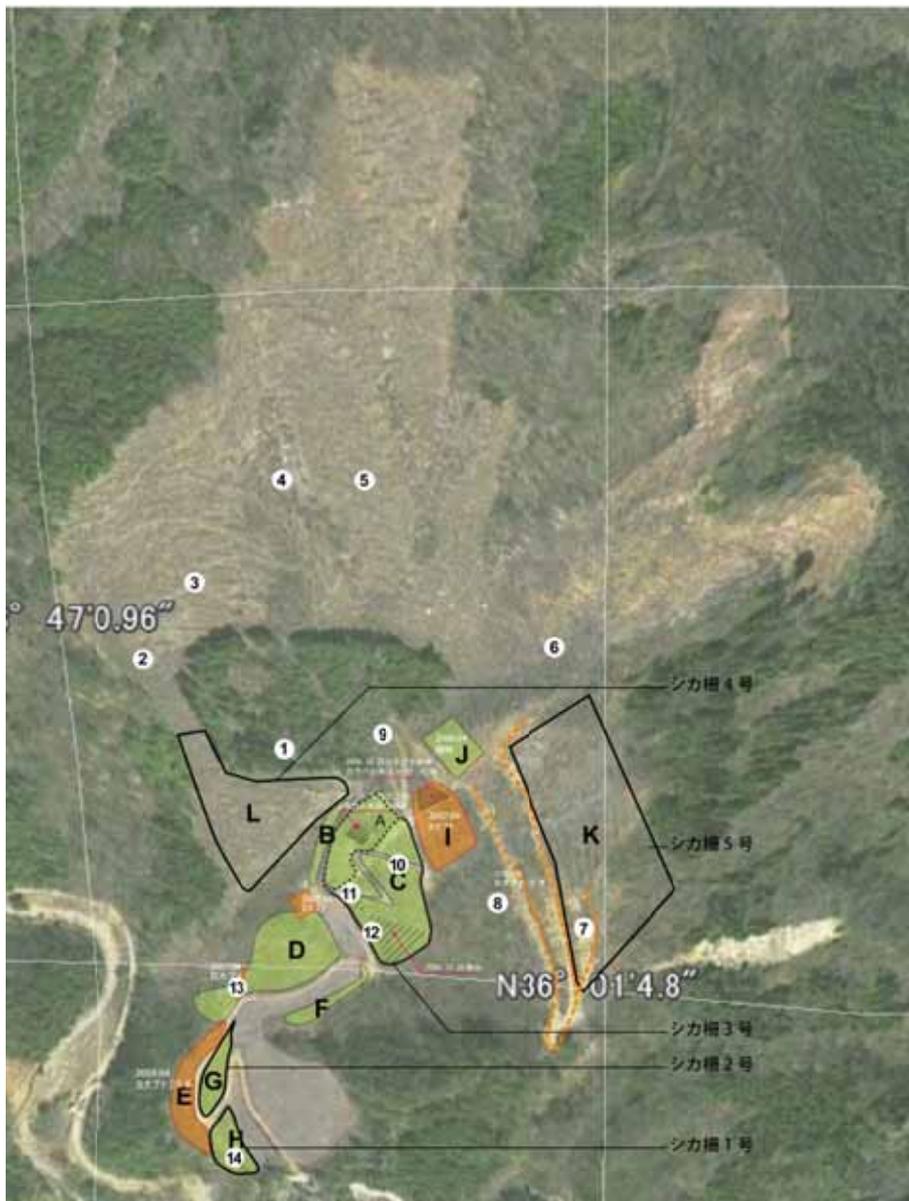


山吹沢植林地の現況について (2012年5月)



山吹沢県有林の植林活動は、今年で10年目を迎えます。一昨年(2010年9月)のシカ柵の全面的な設置によって、植林環境は大きく改善されました。植栽されたブナやミズナラ、カツラなども順調に生育し、少しずつ森の姿をあらわしはじめています。中津川県有林の山吹沢地区は、県民の森であるとともに秩父の優れた森林が再生されるモデルフォレストとして大切な意味を持っています。多くの県民の皆さまや子どもたちが長期的に関われる活動を目指しています。山吹沢植林地の現況をご紹介します。



1 親子窯、

ヒノキ造林地、 斜面窪地に定着した広葉樹帯、 オオバアサガラの拡大域、
シカ柵設置による植生回復域、 広葉樹二次林、 残存人工林
成長するブナやカツラなどの植栽樹、 さまざまな獣害防止ネット

1. 親子窯（地図 ）

小さな石組みの炭焼き窯の跡が、大きな炭窯の隣に残されている。子どもに炭焼きの技術を教えるためにつくられたという。山吹沢県有林にスギやヒノキの植林が行われた70年以上もまえのものである。当時、山吹沢を含む広河原谷には山住の炭焼きたちが100世帯以上いたといわれる。焼かれた白炭は、荷駄や人の肩に担がれ、県境を越えて群馬に運ばれたという。親子窯の石積みは、広葉樹で覆われていた山吹沢の森林史を語る遺跡である。



左：親窯（内径5m）、右：子窯（内径2m）

2. ヒノキ造林地の現状（地図 ~ ）



左：シカの食害により赤く枯れたヒノキの一群（図左下）、右：食害と表層土の流出によって痛めつけられたヒノキ苗



左：伐採後10年を経過した伐根、右：急斜面のわずかな窪地に定着する広葉樹

3. 早生樹オオバアサガラ侵入による土壌の定着エリア（地図 ）



オオバアサガラ・サワグルミ・ヌルデ・ホンザンショなどの早生樹の侵入による土壌の安定化

4. 山吹沢県有林に部分的に残された天然性二次林と人工林（地図 ・ ）



右：イタヤカエデ・ウリハダカエデ・サワグルミなどからなる二次林、右：スギ・カラマツ人工林

5. シカ柵の設置（2010年9月）による植生の回復（地図 ・ ・ ）



シカ柵5号内の植生状況、左：外から撮影、右：シカ柵内



左：シカ柵 3号内、右：シカ柵 1号内

6. 植栽樹の成長（地図 ・ ）



左：ブナ（2003.4）、中：カツラ（2003.4）、右：イタヤカエデ（2010.11）

7. さまざまな獣害対策（地図 ）



右：ヘキサチューブ、中：ラクトロン、左：広葉樹には不向きな「くわんたい」